

例えば、表の「国語、社会～」の教科において、到達度70～79%として、21～30%を学習参加度だけで評定している教師が6人、参加度>伸長度で評定している教師が34人、参加度=伸長度で評定している教師が3人、参加度<伸長度で評定している教師が5人、合計48人（28%）であることを表している。

- 「国語、社会、数学、理科、英語」においては、到達度70%以上で、学級参加度、伸長度を加味して評定を行っている教師が65%を占めているが、到達度100%だけで、評定している教師も5%を数える。

この到達度70%以上の範囲において、学習参加度や伸長度を加味している割合は、参加度>伸長度が24%、参加度のみ及び参加度=伸長度がそれぞれ19%と多くなっている。

- 「音楽、美術、保健、家庭、農業、工業、商業」においては、到達度69%以下で、学習参加度、伸長度を加味して評定している教師が60%となっている。なお、この範囲における学習参加度や伸長度を加味している割合は、参加度>伸長度が28%、参加度<伸長度が22%と多くなっている。
- 全体的にみて、到達度に参加度や伸長度を加味して評価している教師が多く、さらに、参加度と伸長度では、参加度の割合が大きいようである。

・ 評定についてのまとめ

「国語、社会、数学～」のような教科、「音楽、美術、保健体育～」のような教科、ともに到達度評価50%以上において、参加度、伸長度を加味して評定しているが、「国語、社会、数学～」のような教科では、到達度70%以上で参加度・伸長度を加味して評定している割合が多い。一方、「音楽、美術、保健体育～」のような実技を伴う教科では、到達度69%以下で伸長度、参加度を加味して、評定している割合が多い。

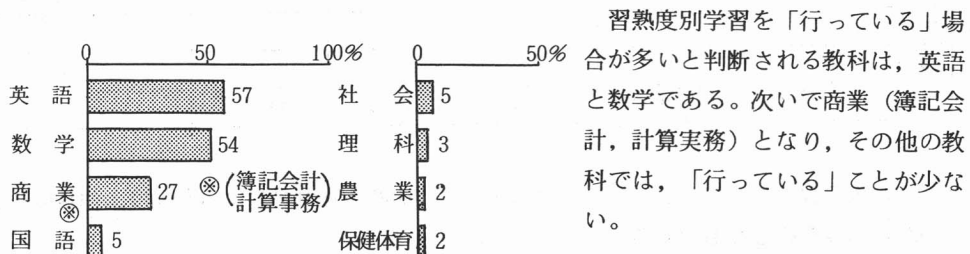
なお、両教科ともに、到達度に参加度を加味した評定を行っていることが断然多い。このことは、学習態度など情意面の評価が強調されてきたことをうかがわせ、望ましい傾向といえよう。

(2) 習熟度別学習の実施状況

〔設問 25〕 あなたの学校では、習熟度別学習を行っていますか。



- 研修講座受講者の回答を単純計算した結果をみる限りでは、全体の約4分の1が習熟度別学習を「行っている」としている。
- 「行っている」場合、その教科の面からみると、次のとおりである。



習熟度別学習を「行っている」場合が多いと判断される教科は、英語と数学である。次いで商業（簿記会計、計算実務）となり、その他の教科では、「行っている」ことが少ない。